

凡事徹底

2021. 10. 27

「凡事徹底」この言葉に出合ったのは、長男がお世話になった中学校の掲示板だったと記憶している。そのときは、「ああ、いい言葉だな」と感じたものである。その後、イエローハット創業者の鍵山秀三郎さんやパナソニック創業者の松下幸之助さんが、座右の銘としていることを知った。

普通のことをちゃんとやる、徹底してやり続けることが、最終的には、非凡な成果をもたらすという意味であろう。他にも様々な成功者が、似たようなことを言っている。イチローさんも「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただ一つの道」とおっしゃっている。これもまた、凡事徹底の一つだろう。

立命館アジア太平洋大学の学長を務める出口治明さんも「人間ちよぼちよぼ主義」という言い方で、「そんなに人の能力自体は変わらず、結局は、やるかやらないかだ」との趣旨のことをおっしゃっている。凡事でも徹底することで、大きな実りがあるというのは真実のようである。

普通のことを徹底してやり続けるだけで、何かを成し遂げられるのならば、何となく自分にでもできるのではないかと思えてくる。しかし、物事はそううまくはいかない。それができないから、一部の成功者と多くの凡人とに分かれるのだろう。

普通のことをちゃんとやるというのは、実はとても難しいことである。では、なぜ普通のことなのにできないのだろうか。人間はどんなことも慣れてしまうと横着になり、ずぼらになる傾向がある。最初は、緊張して一つ一つミスがないように進める。ところが、慣れてきて自信などついてしまうと、適当にやっても大丈夫だろうという気分になってくる。

また、人間は同じことをずっと続けると、だんだん飽きてしまう。そうすると、「凡事」ではなく、「特殊なこと」を試したくなる。王道をしっかりと歩くのではなく、何かショートカットがないだろうかと探してしまう。

令和3年度の野田中学校の生徒指導におけるテーマは、以下のとおりである。

凡事徹底 ～ 当たり前のことを、心を込めて（生徒）～

～ 全ての教師が全ての生徒をよりよく導く（教師）～

昨年度はどうかというと、同じである。つまり、野田中学校は「凡事徹底」をスローガンに掲げている学校なのである。当たり前のことを、「心を込めて」というのがよい。

もし、凡事徹底が為されるならば、野田中学校は、何かを成し遂げることができる学校になるだろう。だが、これがかなり難しい。それでも、実際にできている生徒もいる。こういった生徒は目立つわけではない。感心するばかりである。当たり前のことを、心を込めてという前に、生徒に心を込めて語りかけなければならない。

鍵山秀三郎さんは、次のようにおっしゃっている。

ところが、凡事徹底というのは、そんなに簡単にできることではないんですよ。「凡事徹底中」とおっしゃってはいるけど、私から見ると、「万事手抜き」という方も少なくはないのです。凡事徹底というのは、本当に取るに足らない些細なことを大事にしていくところから積み上げていかなければいけないことだと思っております。

これからは、凡事徹底中の生徒に、これまで以上に光を当てていきたい。そして、将来、何かを成し遂げるための土台づくりを支えていきたい。